

旭川龍谷高等学校 授業シラバス

担当者：

教科名	科目名	単位数	学年	必／選	コース／フィールド
国語	現代の国語	3	1	必	特進コース／難関突破
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力や他者に共感したり豊かに想像する力を高め、自分の考えを広げ深めることができるようにする。また我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
教科書	現代の国語（数研出版）	副教材等	頻出漢字マスター3000（尚文出版）		

1. 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 学習計画及び評価の観点

※評価の観点：X(知識・技能)、Y(思考・判断・表現)、Z(主体的に学習に取り組む態度)

学習内容	時数	月	学習のねらい	評価の観点		
				X	Y	Z
○「読む」と「書く」 書けない日々	6	4	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。また「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	
○社会と文化 コミュニケーション能力とは何か 水の東西	12	5・6	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。また筆者の意見を参考にしながら、積極的に根拠や具体例を用いて文章を構成し、自分の意見をまとめようとしている。	○		○
○問題を提起する 感情暴走社会の由来	4	6	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、筆者の文章を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。		○	○
○新しい視点 「わらしべ長者」の経済学 ポスト・プライバシー	10	6・7	文章の内容を踏まえ、積極的に具体的事例などを用いて考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。	○		○
○ことばの働き ものとことば	6	8	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。また「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	
○対比する デジタルメディア時代の複製 ○賛否を述べる 命は誰のものなのか	10	9	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。「書くこと」において、意図に応じて書かれているかを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。		○	○

学習内容	時数	月	学習のねらい	評価の観点		
				X	Y	Z
○環境と科学 動物園というメディア 科学コミュニケーション	12	10	筆者の考えを的確に理解したうえで、積極的に適切な実例を考え、学習課題に沿って発表しようとしている。	○		○
ズームアップ 環境問題のこれから	4	10	「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。		○	
○人間と時間 時間と自由の関係について	8	11	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	○	○	
○認識の枠組み 他者を理解するということ	4	11	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。	○		○
○解釈を述べる	4	12・	文章中に示された定義や筆者の考えを的確にとらえ、解釈することができる。		○	○
○具体例を示す	4	1	具体例が主張を支える根拠としてどのように使われているかという意図を読み取ることができる。		○	○
○意見を述べる 無痛化する社会のゆくえ ○関連づける 絵を前に思いをめぐらす	6	2・3	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。「書くこと」において、筆者の考えが的確に伝わるよう、説明の仕方を考えとともに、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。また文章の内容を踏まえ、積極的に具体的事例などを用いて考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。		○	○